

丹波の漆かき

漆かきは、丹波地方で 1300 年以上の歴史がある工芸品です。漆を塗ると耐久性が増し、非常に光沢のある仕上がりになります。漆は、樹皮にいくつかの切り込みを入れ、専用の道具で樹液を採って作られています。漆の収穫は伝統的に男性の仕事であり、6 月から 10 月までの間に多くの農民が副業として行っていました。

丹波漆はその非常に優れた品質で有名です。職人は、丹波漆が扱いやすく、素晴らしい香りと色を持っていることに気づきました。漆の品質は、その漆がいつの段階で漆から採集されたか、そして採集者の技術に大きく依存します。丹波漆の極めて高い品質は、丹波の漆職人の技術の精度と誠実さによるものなのです。

この丹波の文化遺産を保存するため、京都府は漆かきを無形民俗文化財に登録しました。「やくの木と漆の館」では、漆の採集道具や抽出工程に関する展示を見ることができます。またこの館には漆器製品を扱うショップやギャラリーもあり、その一部には丹波漆の製品も含まれています。